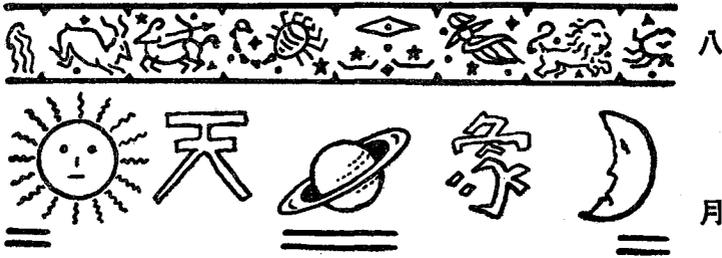


一九三三年  
(昭和八年)



(花山天文臺)  
月

I—太陽と月 (天空の明暗)

日付	太陽		月			月の相
	日出 (星座)	日没	月齢	月出 (星座)	月没	
日	時分 (かに)	時分	日	時分	時分	
1	5 6	7 0	8.9	15 20 (さそり)	—	○満月 6日 4時32分
6	5 9	6 55	13.9	19 32 (やぎ)	5 40	●下弦 13日 12時49分
11	5 13 (しゝ)	6 50	18.9	21 49 (うを)	11 5	●新月 21日 14時48分
16	5 17	6 45	23.9	0 27 (うし)	15 53	●上弦 28日 19時13分
21	5 21	6 39	28.9	5 25 (しゝ)	18 49	
26	5 25	6 32	4.4	22 47 (をとめ)	21 12	
31	5 28	6 26	9.4	16 10 (いて)	0 52	

II—天象

日	時分	天象
3	8	— 天王星停留。1時43分、+10°0′、夜明の星。光度6.1度
4	4	— 金星(北38°)と海王星の合。金星は光度負3.3等で獅子座ρ星の近くを順行中。太陽より2時間程遅れて没す。
6	4 33	— 土星(北30°)と月と合。月の半経は約16′ 20″であるから満月に近い月の南に月の半経程離れて土星が見える。
6	8	— 土星の對衝。光度は0.4等で山羊のθ星の近くにある。眞夏の夜の事ではあるし觀望に最もよい。北極に近く水色の帯が見える。赤道の白く輝く帯と其のすぐ北の回歸帯にある灰色の帯はよいコントラストをなしてゐる。6日頃から16日頃迄一年中で最も著しい流星雨がペルセウス座を中心として流れるからぜひ見られたい。
9	16	— 水星の停留。夜あけ前一時間程見える。蟹座θの附近。光度、0等。
11	20 34	— 天王星(南5°34′)と月と合
17	20	— 金星(南6′)と木星との合。望遠鏡でみると同一視野にこの明るい星が2つ見える。木星も當分の間お別れである。
18	8	— 水星が西に離角。但18° 37′であまり著しい離角ではない。
19	23 4	— 水星(南2° 31′)と月との合。
21	—	— 金環食。午後0時55分カイロの西にはじまり裏海の南を通り印度の北部を抜け、マレ1半島の北の海上をはしり濠洲北部にあり濠洲の北部を通り抜けたところで4時42分に終る。我國では午後3時頃朝鮮の大部分と九州臺灣でわずかに見えよう。
22	14 20	— 海王星(北2° 3′)と月の合。
23	22 43	— 木星(北4° 2′)と月の合。
24	11 6	— 金星(北4° 14′)と月の合。
26	10 20	— 火星(北4°36′)と月と合。火星は月末にスピカの東方10°ほどの所迄進む。
26	14	— 水星が近日點。
		流星。 8月—9月 魚座γ 緩、微 6月—8月 セフエη 速 中旬—下旬 白鳥γ 速

## 八月の夜の天空

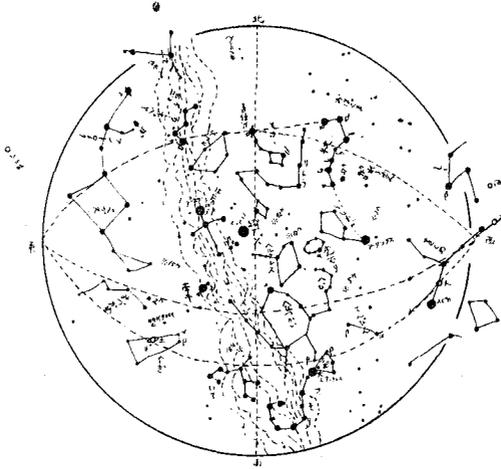
(恒星時 Sidereal Time 14時)

日本の中央部(京阪神地方)で

8月1日ならば午後9時 15日ならば午後8時

東京は約15分早く、福岡は約20分遅く現はる

但し時刻は日本中央標準時



### III—八月の天空

**大熊小熊**。之は誰でも知つてゐる。大熊の北斗は柄を上にしてたれさがつてゐる。ひしゃくの頭にあたる星、 $\beta$ を東の方に延してゆくと北極星が見つかる。北極星は2等星であるが小さな星で少しもやのある日等にはあまり大きな期待をかけて探してゐると中々見出しにくい事がある。北斗の柄はまつすぐなつてゐないで少しく曲つてゐるこの曲つた線をずつとのぼすと西の空に黄色な輝いた一等星が見られる。之が牛飼の $\alpha$ 星で名前はアークツラスといふ。

**琴白鳥鷺**。天頂から東にかけて3つの一等星が大きな直角三角形を形造つてゐる。このうち天頂に近いものが織女星(ベガ)南方に銀河をへだて、見えるのが牽牛(アルタイル)である。銀河にひたつた残りの一つは白鳥座の星デネブであつて之を頭として牽牛織女の間際に迄のびた大きな十字架がすぐに連想される。

**蝎射手**。天頂から南に下るほど銀河はとよくなつてみる。南にある赤い一等星は支那でいふ大火。蝎座 $\alpha$ 星である。この星を見てゐると附近の星と共に尾をまげた毒虫の形がありありと想像出来る。蝎の東に二等星が一つらなりになつて見え銀河は最も濃い。これが射手座であつて双眼鏡でもむけるなれば必ず二つ三つの星圖や星雲が視野に見えよう。射手座には銀河系の中心がある。

**秋の星**。夜がふけると秋の星が東にのぼつてくる。W字形のカシオペヤ座や平行四邊形のペガス、がそれである。早起きの人は夜明け前にカペラやプレヤデスも相當高く、水平線に昇つてきたばかりのオリオンをみとめ得るだらう。